

《 遺 物 》

古墳時代前期～後期にかけての遺物が多く出土しています。
 遺物は土師器が中心でそこに須恵器や石製品が加わる様相です。土師器は甕や高杯などが多く、須恵器は比較的器種が豊富なことが特徴です。その中でも今年度は特に石製品の出土が目立ちます。勾玉や管玉、石製有孔円盤（鏡形）といった装飾、祭祀関連品が複数見つかっています。昨年度の調査では子持勾玉が出土していることから調査区近辺にて祭祀儀礼行為などが行われていたと考えられます。



遺物集合写真（令和4年度出土）

【土師器】



たかつき 高杯



こがたつぽ 小型壺

【石製品】



くだたま 管玉



まがたま 勾玉

【須恵器】



つきふた 杯蓋

※杯蓋と杯身は重ねて使用します。



つぼ 壺（口縁部）



せきせいゆうこうえんぼん 石製有孔円盤



ぼうすいしゃ 紡錘車
 ※織物の繊維を紡ぐために用いられた道具。



つきみ 杯身



はそう 礎



SD11 1789 跡全体図
 *五千石遺跡1区・3区・4区東地区・5区
 長岡市教育委員会 2011



こもちまがたま 子持勾玉
 ※昨年度出土

大河津分水路工事を物語る出土品



大河津分水路工事関連品

2次調査でも約100年前の大河津分水路工事で使用されたと思われる道具類などが出土しました。
 ボルトや穴の開いた鉄板などが複数出土しましたが用途が不明なものがほとんどですが、大河津分水路工事の様子を感じられる貴重な資料です。

こんなものが見つかって
 います!!

いしみなと 石港遺跡（2次）現地説明会資料

令和5年7月1日（土）
 燕市教育委員会



遺跡位置図

国土地理院 電子地形図 25000「新潟」使用

1	有馬崎遺跡
2	竹が花遺跡
3	天王遺跡
4	宝崎遺跡
5	京ヶ入遺跡
6	下谷内遺跡
7	幕島遺跡
8	新保入遺跡

《 遺跡と調査の概要 》

石港遺跡は燕市渡部にある古墳時代（約1,700～1,500年前）の遺跡で、信濃川大河津分水路右岸に位置します。分水路工事の際、良寛史跡として知られる「夕ぐれの岡」の西裾から古墳時代の土器と子持勾玉が出土したと伝わります。

信濃川大河津分水路の改修事業に伴い分水路下流の低水路掘削工事が計画され、令和2・3年度に実施した試掘・確認調査の結果、石港遺跡の範囲が低水路工事区内に広がることが分かりました。遺跡は南北約230m、東西約350mに及びます。

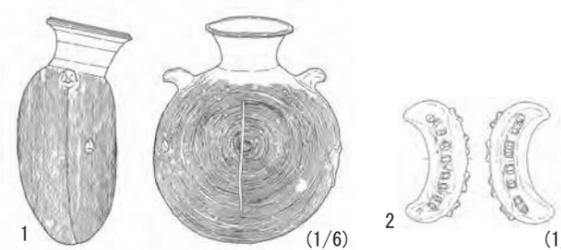
発掘調査は令和4年から実施しており、今年度の調査は2年目です。調査面積は令和4年度が5,000㎡、今年度は13,040㎡（予定/上層9,780㎡、下層3,260㎡）です。

発掘調査はまだ途中で不明な点は多くありますが、近くにある竹が花遺跡は前方後方墳と推定されており、石港遺跡との関係が注目されます。今後の調査によって、竹が花遺跡との関係や古墳時代のくらしに迫る手がかりが得られることが期待されます。



R5.6/15撮影

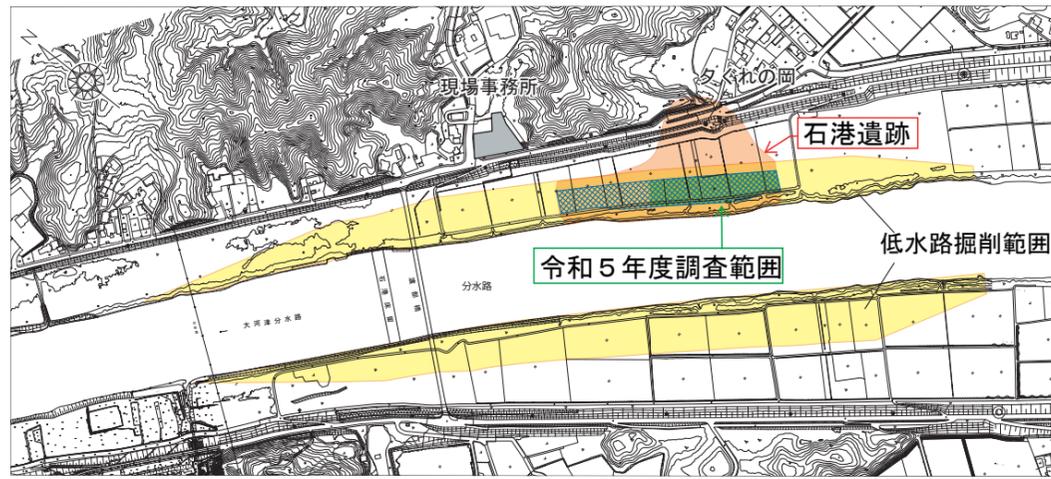
調査区遠景（南西から市街地を望む）



石港遺跡出土 1 提瓶・2 子持勾玉（『分水町史』資料編I（2004））



「夕ぐれの岡」出土の子持勾玉



遺跡範囲図

《 基本層序 》

石港遺跡の土層は、大きく7層に分けることができます。I層目は大河津分水路が増水した際に河川敷に堆積したと考えられる砂です。II・III層は今年度の調査区では確認できませんでした。IV層（上層）は古墳時代中・後期の遺物をメインに含む黒褐色土です。V層は古墳時代中・後期の遺構検出面で灰白色粘土ですが、低地部などで堆積し、微高地ではほとんど堆積していません。VI層（下層）は古墳時代前期の遺物を含む黒褐色粘土です。VII層は遺構検出面です。古墳時代中・後期、前期の遺構が混在して見つかります。遺構の時期の違いを埋土や含まれる遺物によって判断して調査を行っています。



基本層序

* 地面の白線は遺構の可能性を示しています

《 遺構と微地形 》

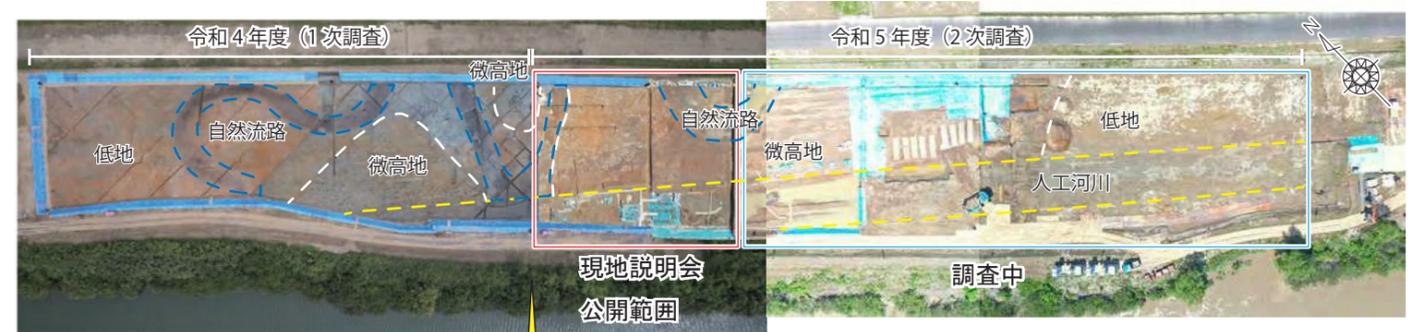
2次調査では、掘立柱建物、竪穴建物、平地建物（周溝状遺構）といった構造の異なる建物が複数見つっています。これらの建物は互いに重なり合うものも認められことから、同一の集団が建物の建て替えを行うか、または別の集団が時期を隔ててこの場所に居住していたことを窺わせます。加えて、建物の中には1辺10m前後の大型竪穴建物が見つっています。写真に写る人と比べるとかなり巨大であることがわかります。この大型の建物がどのような性格であったか今後の調査によって検討していきます。



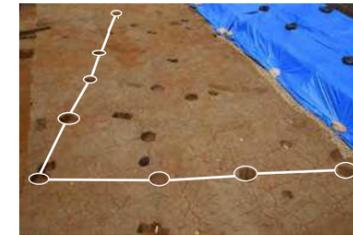
大型竪穴建物 (SI1130)

調査区内では遺構の他に河川の痕跡が見つっています。自然流路が昨年度に続き調査区内を蛇行しており、分水路側には人工河川が調査区南東端まで直線的に続きます。現在の調査地は河川敷で平坦ですが、大河津分水路工事以前の様子は丘陵が伸び、島状の微高地や沼などが点在するなど変化に富んだ地形であったと伝わっています。

石港遺跡全体図



木棺墓 (SK804)



掘立柱建物 (SB1040) (結線)



掘立柱建物 (結線)



土坑から出土した土器 (SK1285)



溝から出土した土器 (SD801)



溝から出土した土器 (SD1711)